

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)

第58回近畿地方会総会および特別講演・シンポジウムのご案内

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 車谷典男

日本産業衛生学会近畿地方会総会を開催いたします。会員の多数の参加をお待ちしています。

日 時：平成22年6月5日(土)13:00～17:00

会 場：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

「第58回近畿地方会総会および基調講演・
シンポジウムのご案内」
基調講演・シンポジウム (14:00～17:00)

基調講演・シンポジウムの企画の意義

古来「タバコは百害あって一利なし」という諺があるように、タバコの害は広く世間に知れ渡っています。実際タバコには様々な有害物質が含まれ、肺ガンをはじめとする多くのガン、呼吸器疾患、動脈硬化性疾患等、色々な病気の原因となっています。しかし、愛煙家にとっては、喫煙がすぐに自覚症状と結び付かないため、またニコチン依存や習慣性の問題もあって、なかなか禁煙行動に繋がりません。一方、欧米諸国では早くから禁煙対策に取り組んだために、喫煙率の減少と共に肺ガンなどの喫煙関連疾患による死亡率が低下傾向を示し始めていますが、我が国ではまだまだ増加傾向にあります。

1999年以降、WHOは国際的な協調のもと地球規模でタバコ規制に取り組むために、「タバコ規制枠組み条約(FCTC)」の制定に取り組み、2005年2月に発効し、日本も2004年6月に批准しました。しかし、日本はタバコと健康に関する情報提供・啓発普及を中心とした取り組みだけで、タバコ規制のための環境整備を怠ってきたため、効果的な喫煙率の低下には至っていません。政府は2003年に健康増進法を制定し、飲食店など多数の者が利用する施設の管理者に対し、受動喫煙防止措置を取ることを努力義務としました。これを受けて、2003年5月に「職場における喫煙対策のためのガイドライン」が策定されましたが、国民全体の受動喫煙防止に向けての整合性のある取り組みが示されていないなど種々の問題が残っています。

一方社会におきましては、地方自治体による禁煙区域の設定、禁煙タクシーの増加、病院はもちろん学校での敷地内禁煙の推進など、着実に禁煙運動が浸透してきています。今年4月からは神奈川県で「公共的施設における受動喫煙防止条例」が施行されています。このような動きに刺激され、またFCTCの発効から5年という期限の年を迎え、政府も重い腰を挙げ、厚生労働省が「受動喫煙防止に係わる新たな指針」を発表しましたが、この通知も罰則規定がなく、どの程度の実効性があるのかが懸念されています。

また具体的な禁煙対策としては、2006年4月に禁煙治療の保険適用が可能となり、6月1日から禁煙補助薬のニコチンパッチが保険適用薬となりました。また2008年4月には禁煙治療内服薬のパレニコリンが厚生労働省により認可され、さらにニコチンパッチも承認され、薬局で手軽に購入出来るようになりました。このように以前にくらべ禁煙サポートが充実してきており、禁煙に取り組むやすい環境が整ってきています。

職場における受動喫煙防止対策については、快適職場づくりの観点から対策が推進されてきましたが、以上のような政府、地方自治体、社会の動きに比較して、企業では禁煙対策が遅々として進まず、建物内禁煙・敷地内禁煙はおろか喫煙室を設置して分煙化するのがやっとの状態で、全面禁煙化には程遠い現状です。

以上のような職場での現状を踏まえて、今一度、職場の喫煙対策を考えようということで、今回の講演会とシンポジウムを企画しました。参加していただく皆様方と一緒に、喫煙による職場での健康被害をこれ以

上拡大させないために、今後どのようにして職場の禁煙を進めていくのかを考えたいと存じます。多数の皆様方にご参加いただき活発なご討論をお願い申し上げます。(佐野 敦)

メインテーマ

タバコフリー快適職場と禁煙サポート
—今一度、職場の喫煙対策をかんがえる—

基調講演

受動喫煙防止に係わる厚労省の新たな指針と事業場
でとるべき喫煙対策

演者 大和 浩(産業医科大学産業生態科学研究所
健康開発科学研究室教授)

座長 廣部一彦(みずほフィナンシャルグループ大
阪健康開発センター長)

シンポジウム

座長 佐野 敦(パナソニック株式会社本社健康管
理室室長)

松本泉美(神戸常盤大学看護学科講師)

シンポジスト

- 1) 健診を活用した職場の禁煙推進
中村 正和(大阪府立健康科学センター健康生
活推進部長)
- 2) いつでも・どこでも・だれでもできる禁煙推進
繁田正子(京都府立医科大学大学院医学研究科
地域保健医療疫学講師)
- 3) 屋内完全禁煙化の実現
—喫煙行動への影響と今後の課題—
川谷暁夫(パナソニック株式会社高槻健康管理室室長)
- 4) 職域における禁煙指導の実際
葛目百合(大阪府警察本部健康管理センター保健師)

日本医師会認定産業医制度産業医学研修の生涯研修(3
単位)を申請中です。

単位取得希望者は下記要領にてお申し込みください。

〈参加費〉

産衛学会員：無料(ただし、産衛学会員で日医認定産業
医単位希望者：3,000円)

非産衛学会員：2,000円(ただし、非産衛学会員で日医認
定産業医単位希望者：5,000円)

〈単位申請〉

1. 日医認定産業医単位取得
2. 産業看護職継続教育システムによる単位認定取得

【申し込み方法】様式自由

- ①6月5日(土) 特別講演・シンポ参加希望、②
氏名(ふりがな)、③連絡先住所・電話・FAX ④所属
医師会名 ⑤日本産業衛生学会員であることを明記
①から⑤を明記の上、日本産業衛生学会近畿地方会
事務局あてに、FAX(0744-22-1801)でお申し込み
ください。

【受け付け期間】

5月17日(月)から開始し、定員(100名)になり次第
締め切ります。

FAX受信時間帯 平日の9時～17時

【諾否の連絡】

受講票送付にて回答とし、お断り(定員超過)の
場合はFAXでご連絡します。

平成21年度近畿地方会収支報告および平成22年度予算（案）

1. 収入の部

科 目	21年度予算額	21年度決算額	22年度予算額
(1) 会費収入	2,000,000	2,407,000	2,000,000
正会員会費収入	1,700,000	1,954,000	1,700,000
特別会員会費収入	300,000	453,000	300,000
(2) 助成金収入	1,900,000	1,843,500	1,900,000
日本産業衛生学会助成金収入	1,900,000	1,843,500	1,900,000
(3) 事業収入	200,000	240,000	200,000
広告料収入	200,000	240,000	200,000
(4) その他収入	2,000	1,048	300,500
受取利息	2,000	1,048	500
役員選挙積立金より	0	0	300,000
当期収入合計	4,102,000	4,491,548	4,400,500
前期繰越収支差額	2,754,338	2,754,338	3,324,437
収入合計	6,856,338	7,245,886	7,724,937

2. 支出の部

科 目	21年度予算額	21年度決算額	22年度予算額
(1) 事業費	3,350,000	2,539,311	3,350,000
①機関誌費	1,450,000	1,154,113	1,450,000
印刷費	500,000	495,709	500,000
広報活動費	150,000	47,020	150,000
通信運搬費	800,000	611,384	800,000
②助成金支出	1,150,000	850,000	1,150,000
近畿産衛学会開催助成金支出	400,000	400,000	400,000
産業医師会助成金支出	100,000	100,000	100,000
産業看護部会助成金支出	100,000	100,000	100,000
産業技術部会助成金支出	100,000	100,000	100,000
研究会補助金	300,000	150,000	300,000
研修会補助金	150,000	0	150,000
③例会事業費	750,000	535,198	750,000
地方会総会開催費	500,000	445,198	500,000
学術担当費	250,000	90,000	250,000
(2) 管理費	1,650,000	1,021,138	2,250,000
①運営費	850,000	470,162	1,750,000
幹事、代議員会費	150,000	92,162	150,000
役員選挙費	0	0	600,000
IT関連、ホームページ維持管理費	700,000	378,000	1,000,000
②事務費	800,000	550,976	500,000
事務局費合計	400,000	400,000	400,000
備品	200,000	61,280	0
消耗品費	100,000	66,946	100,000
地方会事務局移転費用	100,000	22,750	0
(3) その他支出	300,000	300,000	0
役員改選積立金支出	300,000	300,000	0
(4) 予備費	500,000	61,000	500,000
当期支出合計	5,800,000	3,921,449	6,100,000
当期収支差額	-1,698,000	570,099	-1,699,500
次期繰越収支差額	1,056,338	3,324,437	1,624,937
支出合計	6,856,338	7,245,886	7,724,937

財産目録 (1)ノートパソコン・デル1台 (2)FAX(0744-22-1801) Panasonic 1台

21年度の会計年度は平成21年3月1日から平成22年2月28日まで。

平成21年度近畿地方会事業報告

1. 第57回近畿地方会総会および学術講演会

日 時：平成21年6月6日(土) 13:00～17:00

場 所：大阪市大医学部学舎 4階大講義室

A. 総会

5月27日現在の地方会員数は1317名、出席者73名(委任状400名)で、会員の5分の1以上の出席により総会は成立(地方会会則第18条)。平成20年の事業報告・収支決算報告と平成21年度の実業計画案・収支予算案を承認。

B. 学術講演会(参加者187名(うち学会員数106名))
メインテーマ

「心理的負荷に関する精神障害等の労災認定基準」改定を受けて

～これからの職域におけるメンタルヘルス不調者対策を考える～

1) 特別講演「昔のうつと今のうつ」

～現場での考え方と労災新認定基準について～

演者：夏目 誠(樟蔭女子大学)、

座長：圓藤吟史(大阪市大大学院医学研究科)

2) シンポジウム

「メンタル不調者対応にかかわる諸問題」

～復職支援制度、復職判定、労災新認定基準と法的解釈～

座長：鮫島真理子(パナソニック健康組合健康管理センター)

廣部一彦(みずほFG大阪健康開発センター)

シンポジスト

(1) 専属産業医の立場より：

橋口克頼(パナソニック(株)本社R&D部門守口地区健康管理室)

(2) 産業看護職の立場より：

鈴木美恵子(栗田工業大阪医務室)

(3) 精神科医の立場より：

鍵本伸明(ナンバかぎもとクリニック)

(4) 弁護士としての立場より：

山田長伸(山田長伸法律事務所)

2. 第49回近畿産業衛生学会

(参加者165名(うち学会員数118名))

日 時：平成21年11月14日(土)

場 所：兵庫県医師会館

学会長：西尾久英(神戸大学大学院医学研究科)

1) 特別講演「中小企業の労働衛生の現状と課題」

演者：鈴木克司(兵庫県医師会・兵庫産業保健推進センター)

座長：西尾久英(神戸大学大学院医学研究科)

2) シンポジウム「職場における新型インフルエンザ対策」

座長：島 正之(兵庫医科大学公衆衛生学)

丸茂幹雄(兵庫医科大学環境予防医学)

シンポジスト

(1) インフルエンザパンデミックの基本とその対策：押谷 仁(東北大学大学院医学系研究科微生物学分野)

(2) 産業保健との連携：田所昌也(兵庫県健康福祉部健康局疾病対策課)

(3) 都市ガスの供給継続にむけて：濱田千雅(大阪ガス(株)人事部健康開発センター)

3. 代議員会

第1回 平成21年6月6日(土) 大阪市大医学部学舎

第2回 平成21年11月14日(土) 兵庫県医師会館

4. 幹事会

第1回 平成21年6月6日(土) 大阪市大医学部学舎

第2回 平成21年9月8日(火) 大阪市大医学部学舎

第3回 平成21年11月14日(土) 兵庫県医師会館

第4回 平成22年2月15日(月) 大阪市大医学部学舎

5. 近畿地方会ニュース

年4回(78号～81号)発行した。毎号12頁から構成し、全地方会員と関係者に郵送した。

6. 近畿産業医部会

(1) 第14回近畿産業医部会研究会

(参加者157名(うち学会員数29名))

日 時：平成21年6月13日(土)14:00～17:00

会 場：大阪市大医学部学舎 4階大講義室

テーマ：嘱託産業医の生涯教育システムを考える

基調講演：世界および日本の産業医生涯教育制度と日本への提言

講 師：東 敏昭(産業医科大学産業生態科学研究所)

座 長：森口次郎(財団法人 京都工場保健会)

シンポジウム：

産業医および産業保健専門職の生涯教育システムを考える

山田誠二(近畿産業医部会)

高山 茂(高山内科医院)

平林 裕(京都南地域産業保健センター)

山下泰生(株式会社堀場製作所 総務部)

大脇多美代(大阪産業保健推進センター)

座 長：中西一郎(東レ株式会社 滋賀事業場)

森口次郎(財団法人 京都工場保健会)

(2) ケースカンファレンス研修会(共催)

内容	実施日	開催場所	受講者数
産業医職場診断	9月12日	エルおおさか本館10階松会談室	7
	10月17日	エルおおさか本館7階701号会議室	6
	11月10日	中西金属・天満工場	6
	11月28日	エルおおさか南館7階75会議室	6
	12月19日	大阪産業保健推進センター	4
合 計			29
職場監視	7月25日	エルおおさか本館7階701号会議室	29
	8月8日	エルおおさか南館7階72会議室	27
	9月5日	エルおおさか本館2階文化プラザ	24
	10月10日	エルおおさか本館2階文化プラザ	24
	12月5日	エルおおさか7階701号会議室	21
合 計			125
メンタルヘルスケア	10月7日	エルおおさか南館11階	12
	10月9日	エルおおさか南館11階	15
	11月5日	エルおおさか南館11階	21
	11月27日	エルおおさか南館11階	14
	12月2日	エルおおさか南館11階	11
合 計			73
総 計			227

7. 近畿産業看護部会

(1) 平成21年度産業看護部会研修会

(参加者84名(うち学会員数84名))

1) 第1回研修会

日 時：平成21年7月11日(土) 13:30～16:00

会 場：薬業年金会館4階研修室

テーマ：職場を元気にする健康支援～ポピュレーションアプローチの実践例～

事例提供：石山珠江(元キヤノンマーケティングジャパン(株))

堤 梨恵(三井化学(株))

講 師：廣部一彦(みずほFG大阪健康開発センター所長)

- 2) 第2回研修会(参加者78名(うち学会員数78名))
 - 日時:平成21年10月31日(土) 13:30~16:00
 - 会場:エルおおさか本館7階708号室
 - テーマ:専門職としての文章の書き方、論文の書き方
 - 講師:森岡郁晴(和歌山医大保健看護学部教授)

(2) 幹事会
年4回開催

8. 近畿産業衛生技術部会

- (1) 総会・研究会(参加者12名(うち学会員数10名))
 - 日時:平成21年2月28日(土)13:30~16:00
 - 場所:ユーズ・ツウ(大阪駅前貸し会議室)
 - 講演:新しい生体物質の測定技術:竹内 晴人(大阪労働衛生総合センター)
 - ナノ物質について:羽場方紀(ダイヤライトジヤパン株式会社)
- (2) 近畿学校薬剤師会との合同研究会(参加者60名(うち学会員数15名))
 - 日時:平成21年8月2日(日) 13:45~16:30
 - 会場:中央労働災害防止協会・大阪労働衛生総合センター
 - テーマ:一般生活領域(住居、学校、オフィス)に及ぼす有害化学物質の影響

講演:

- 1) シックハウス症候群-住居・学校事例を交えて
 - 演者:岸 玲子(北海道大学)
 - 座長:宮下和久(和歌山医大)
- 2) 学校保健安全法の改正について
 - 演者:鬼頭秀明(兵庫教育大学)
 - 座長:守谷まさ子(京都府学校薬剤師会)
- 3) 揮発性有機化合物の測定法について
 - 演者:住野公昭(神戸大学名誉教授)
 - 座長:河合俊夫(中災防・大阪労働衛生総合センター)

9. 産業医学実践講座

実施せず(今後の方針について幹事会で協議)

10. 研究会活動実績

- (1) 産業精神衛生研究会
 - ①2009年9月4日(金) 18:30~21:00(参加人数:63名)
 - エル大阪708号室
 - テーマ:「産業医の廣部先生に聞く-産業医・産業保健チームとメンタルヘルス」
 - 講師:廣部一彦(みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター)
 - 座長:夏目誠(大阪樟蔭女子大学大学院教授・精神科医)
 - ②2009年12月21日(月) 18:30~21:00(参加人数:31名)
 - エル大阪709号室
 - テーマ:事例から知る厚生労働省の心理的負荷に関する精神障害等の労災認定基準の改正の実際
 - 講師:夏目誠(大阪樟蔭女子大学大学院教授・精神科医)
 - 座長:井上幸紀(大阪市立大学准教授)
- (2) 職業性筋骨格系障害研究会

- ①平成21年3月7日(土) 13:00~17:00(参加者35名(うち学会員数20名))
 - キャンパスプラザ京都 2階第一会議室
 - テーマ:(1) 介護労働者の腰痛予防に関して: 埜田和史(滋賀医科大学)
 - (2) 作業関連性運動器障害の危険要因: 三橋 徹(ひまわり診療所)

榎原 毅(名古屋大)

- (3) 産業人間工学(Work Design)の翻訳:宇土博(広島文京女子大学)

- ②2009年2月20日(金) 13:00~17:00
京都私学会館205号室(2階)

- (1) 腰痛予防のマニュアル(中災防):甲田茂樹
- (2) 産業人間工学(Work Design)の翻訳:宇土博
- (3) 今後の会の運営・活動:埜田和史・小野雄一郎
- (3) じん肺研究会:開催せず
- (4) 労働衛生法制度研究会:休会中
- (5) 第8回近畿臨床産業医学フォーラム(万有製薬共催)
 - 日時:平成22年2月17日(水) 17:45~20:30
 - 場所:ホテルモントレ大阪
 - テーマ:新型インフルエンザ
 - 特別講演:新型インフルエンザの現状と課題
高橋和郎(大阪府立公衆衛生研究所副所長)
 - パネルディスカッション
「今回の新型インフルエンザの流行と企業の対応」
益江 毅(三洋電機大東産業保健センター)
濱田千雅(大阪ガス健康開発センター)
 - コーディネータ:浦野澄郎(パナソニック健康管理センター)
 - (参加者約100名(うち学会員数約60名))

第58回近畿地方会総会会場地図



代議員の皆さまへ

総会の前に代議員会を開催いたします。代議員の方
はご出席下さい。

日時:平成22年6月5日(土) 12:20~12:50
場所:大阪市立大学医学部学舎4階 小講義室2

◎本ニュースに同封の「総会および代議員会出席確認」
用のハガキを5月25日(火)必着でご返送下さい。
昼食の準備はしていませんので、予め済ませてご
来場下さい。

平成22年度近畿地方会事業計画 (案)

1. 第58回近畿地方会総会および基調講演・シンポジウム

日 時：平成22年6月5日(土) 13:00～17:00
 場 所：大阪市立大学医学部学舎4階大講義室
 テーマ：「タバコフリー快適職場と禁煙サポート
 -今一度、職場の喫煙対策をかんがえる-」
 基調講演：大和浩(産業医科大学産業生態科学研究所
 健康開発科学研究室教授)

シンポジウム：繁田正子
 (京都府立医科大学大学院医学研究科、
 地域保健医療疫学講師)
 中村正和
 (大阪府立健康科学センター健康生活推進部長)
 川谷暁夫
 (パナソニック株式会社高槻健康管理室)
 葛目百合
 (大阪府警察本部健康管理センター保健師)

2. 第50回近畿産業衛生学会

日 時：平成22年11月14日(日)
 場 所：ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター
 (大津市におの浜一丁目1番20号)

学 会 長：木村 隆
 (KCC財団法人近畿健康管理センター理事長)

特別講演：13:00～14:00
 「産業保健における、一隅を照らす」

基調講演：14:00～15:00
 「非正規雇用の現状」脇田教授(龍谷大学)

シンポジウム：15:00～17:00
 「一隅を照らす、産業保健の忘れ物」

3. 代議員会

第1回 平成22年6月5日(土) 大阪市立大学医学部学舎
 第2回 平成22年11月14日(日) ピアザ淡海

4. 幹事会

第1回 平成22年6月5日(土) 大阪市立大学医学部学舎
 第2回 平成22年8月予定
 第3回 平成22年11月14日(日) ピアザ淡海
 第4回 平成23年2月予定

5. 近畿地方会ニュース

第82号(2010年5月15日) 廣部理事担当
 第83号(2010年7月15日) 廣部理事担当
 第84号(2010年10月15日) 山田理事担当
 第85号(2011年1月15日) 山田理事担当

6. 近畿産業医部会

(1) 第15回近畿産業医部会研修会
 日時：平成22年9月11日(土) 14:00～17:00
 会場：大阪市立大学 医学部学舎 4階大講義室
 実行委員長：永田秀敏(パナソニック株式会社奈良健康管理室)
 内 容：メインテーマ

『雇用の多様化と安全衛生の課題』
 基調講演：働き方が多様化する中での産業保健サー
 ビスの課題(森見爾産業医大副学長)
 シンポジウム：校内で働く非正規社員の有害業務
 管理について

(2) ケースカンファレンス研修会(共催：大阪府医
 師会、大阪産業保健推進センター)
 職場診断 計5回
 産業医職場巡視 計5回

メンタルヘルス 計5回

7. 近畿産業看護部会

(1) 平成22年度産業看護部会研修会

1) 第1回研修会
 日 時：平成22年7月31日(土) 13:30～16:00
 会 場：エルおおさか 本館6階606号室
 テーマ：産業看護職の職務・役割
 ～今、産業看護職に求められる役割～
 講 師：五十嵐千代

2) 第2回研修会
 日 時：平成22年10月2日(土) 13:30～16:00
 会 場：エルおおさか本館7階
 テーマ：「新型うつ」その傾向と対策 ～産業
 看護職にもできる認知療法を学ぶ
 講 師：夏目 誠(大阪樟蔭女子大学大学院教授)

3) 第3回研修会
 日 時：平成23年2月26日(土) 13:30～16:00
 会 場：エルおおさか 本館7階
 テーマ：特定保健指導スタートから2年、実施と
 評価、取り組み紹介を通して考える
 講 師：検討中

(2) 産業看護職継続教育基礎コース開催予定

(3) 幹事会：年4回程度

8. 近畿産業衛生技術部会

(1) 産業衛生技術部会総会・研究会
 平成23年2月に予定
 (2) 他の研究会との連合による講習会
 学校薬剤師会および職場のメンタルヘルス環境改
 善担当者との研究会を平成22年7月に予定

9. 産業衛生講座

未定

10. 研究会活動

(1) 産業精神衛生研究会
 平成22年度は2回開催予定
 会 場：エル大阪で行う予定である
 内 容：職場のメンタルヘルスを中心に行う予定
 である

(2) 職業性筋骨格系障害研究会
 日 時：平成22年9月
 会 場：大津近郊施設
 内 容：高齢者/障害児者施設介護職場における
 腰痛・頸肩腕障害予防
 職場見学とワークショップ

(3) じん肺研究会：一回を予定

(4) 労働衛生法制度研究会

しばらくの間休会

(5) 第8回近畿臨床産業医学フォーラム(万有製薬
 と共催)

日 時：平成23年2月
 場 所：ホテルモントレ大阪(予定)
 テーマ、基調講演など未定

11. 協賛事業

海外勤務者健康管理研修会(共催：(社)大阪府医
 師会、大阪産業保健推進センター)
 検討中

12. 地方会役員選挙の実施

会員の声



産業保健に感じること

パナソニック㈱ AVCネットワークス社
南門真健康管理室
西川 佳枝

私は産業保健の分野に従事して2年と、まだまだ駆け出しの身ですが、指導医の伊藤正人先生はじめ職場の方々に日々支えていただき、また近畿地方会にお世話になりながら、さまざまな事例を経験させていただいているところです。

個別の健康相談から、集団を対象とした労働衛生教育や組織の仕組みづくりに至るまで、様々な関わりがあるのが産業保健の面白さであり、かつ難しさであると私なりに感じております。また、健康意識の高い方から低い方まで幅広く集まる会社組織の中で、どのように労務管理と健康管理が関わっていくべきなのか、模索する毎日です。時には産業保健スタッフに対し、会社から求められることと社員個人から求められることが異なる場合もあります。産業保健の枠を超えて労務管理の部分に踏み込みすぎることなく、『医療職として会社での自分自身の立ち位置を見極める』という、柔軟な対応をとることの難しさを痛感しています。

先日広島で研修医時代の同期の結婚式があり、同期が久しぶりに集まりました。2年間の研修を10人で医師としてスタートを共にしましたが、その後の進路は内科、救急部、整形外科、産婦人科、皮膚科、精神科等さまざまです。久々の再会で、話題のほとんどは思い出話でしたが、日頃感じる他科への疑問を話せる機会でもありました。その中で、「産業医ってどんな事してるの?」といった素朴な問いかけもあり、まだまだ産業保健という領域が医療職の中でもよく理解されていない面も多いと感じた一日でした。

産業医学と臨床医学はよく比較されますが、産業医は健康や疾病に対し、臨床医と異なる視点からアプローチできます。多くの場合個々の社員を数十年という長期にわたり健康管理を行うことになるため、社員の背景にある仕事内容やライフスタイルなどを把握し、非常に近い距離で全人的な(家庭医としての)関わりを持つことが求められます。今後、質の高い健康管理を提供していく為に、臨床各科が連携を取り合うのと同様、産業医学と臨床医学も点と点ではなく線で繋がる、より風通しの良い関係を築けるよう会社で勤務する医療職として努めて参りたいと思います。そして、より一層産業保健分野への理解が深まるよう情報発信していけるようになればと感じております。

今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



「ハナミズキ」とウクレレ

リクルート健保・大阪健康管理室
高橋 あつ子

連日、3月28日の所属サークルの個人発表会に向けて、人青窈の「ハナミズキ」独唱とウクレレ合奏の練習の真っ最中。「ハナミズキ」は私の大好きな曲。'薄紅色のかわいい君のね 果てない夢がちゃんと終わりますように 君と好きな人が百年続きますように' これまたなんと主人のサクソ演奏付。かたや、ウクレレ合奏は新米演奏家(2月から一緒に習い始めたばかり)仲間4人でハワイアン演奏に合わせたの楽しい替え歌大合唱と欲張っての2本エントリー。1年前の私と主人には予想すら出来なかった信じられない光景が只今展開中。このサークルとの運命的な出会い(大げさかな、いや今となればそうかも)そう1年前、なにげなくめくっていた市報のサークル募集欄の中から「一緒に楽しく歌いませんか。毎週土曜日19時から21時まで」のキャッチコピーに興味を魅かれたもの自分から飛び込む勇気がなかったので、主人に「このサ

ークル楽しそうだし、ちょっと見学してみたら」と声をかけてみたところ、元来歌うことが大好きな彼はすぐに見学したいと行動に。見学に行ったその日に会員になったよと帰って来ました。「楽しかったよ。来週一緒に行ってみない」との誘いに乗り、彼と同じく私も見学したその日に会員に。夫婦そろって会員になった次第です。ここでサークルを簡単に紹介します。「サークルドレミ」は、はや設立30年超えるそうです。立ち上げのコンセプトは'一人ぼっちの青年をなくそう'今は青年といえる会員は20代男子一人のみ。40代・50代が中心で60代の方もいらっしゃいます。万年青年がずらり。'一人ぼっちの中老年をなくそう'にコンセプトが変わっている感ありますが。設立当初のメンバーが未だ健在。続けていることが素晴らしいですね。そこにこのサークルの魅力があるのでしょうか。楽しそうだから入ってみようと思っただけの時から1年あまり経ちました。これからはずっと付き合っている仲間が出来ました。大切な出会いをありがとう。私自身、'人が好きになった'としみじみ思います。保健師としての宝物、人としてひとに接することの大切さを学んだ気がしています。

会員の声



弊社の歴史と安全衛生活動

山本光学 (株)
副社長 山本 雄才

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。今回このコラムをお借り致しまして弊社の歴史・ご紹介及び安全衛生活動について述べさせて戴きます。

弊社は、1911年の創業以来「眼を護る」眼鏡製品を開発してきました。戦前はガラス素材から出発し、主に炭鉱労働者向けに防塵眼鏡やレンズの製作を行ってまいりました。その後、戦時体制となり軍需下請け工場として航空眼鏡や黄砂から眼を保護する防塵眼鏡などを製造し、戦後に保護眼鏡・遮光眼鏡の製造を再開、そして昭和46年には防曇スキーゴーグル「SWANS」の販売を開始し、当時の札幌オリンピックでは「日の丸飛行隊」として金銀銅を独占した日本のジャンプ陣が使用したスキーゴーグルも当社の製品でした。当時、世界初の曇らないスキーゴーグルとして国内はもちろん世界中で反響を呼びました。その後安全性の高い高機能プラス

チックレンズへ発展、光をコントロールする技術をもとに常に新しいマーケットニーズに応える製品を開発し、マラソンの有森裕子さんやアテネ五輪では野口みずきさんのサングラスに貢献するなどトップアスリートや多くのアマチュアスポーツ選手を支え、進化を続けて参りました。今では広く産業・スポーツ&レジャー・生活の分野で長年にわたって蓄積された技術と製品開発力で、多様な眼鏡、レンズを世界に送り出しています。また、安全・安心を販売している企業としてCSR（社会的責任）の観点から紫外線の有害性に対する啓発活動、レーザー光線の危険性に対する啓発活動などにも積極的に関与・支援を行っております。次なるステップとして、2011年の創業100周年に向け、弊社の21世紀の事業テーマである「Protecting For You」（安全文化の創造）を企業メッセージとして進みます。企業理念である「人々の心の豊かな生活文化を創造し社会に貢献する」快適創造企業を標榜し、人々の夢と希望をカタチにすることが弊社の努めです。この事業コンセプトにより労働災害やスポーツをする人の身体のみならず、人々のライフスタイル全般にわたって起こりうる危険について、より積極的に護ることにより、安全でより快適な生活環境をサポートして行きたいと考えております。



パワーハラスメントのこと

神戸大学大学院
医学研究科地域社会学健康科学講座
西尾 久英

私が神戸大学医学部公衆衛生学教室（現 神戸大学大学院医学研究科地域社会学・健康科学講座疫学分野）に入局し、住野公昭先生をはじめ、諸先輩のご指導を受けることになってから、もう15年が経ちます。この間に、いくつかの事業所の産業医を経験し、作業主任者技能講習会でも講義をするようになりました。現在では、少しは胸を張って「産業医学を勉強しています」と言えるようになったかなと思っています。

先日、神戸市医師会館で開催された、平成22年度神戸西地域産業保健センター地域産業保健問題協議会に出席しました。この協議会では、神戸市医師会、神戸西労働基準監督署、兵庫産業保健推進センター、連合神戸、神戸西労働基準協会から代表者が参加し、昨今の神戸市西地域の産業保健問題について話し合われました。

今回の協議会の主要テーマは、もともとは「自殺予防」でした。自殺予防となれば、話は、自然と、「職場のメンタルヘルス」に向かいます。会議では「上司が職場の雰囲気、職場のメンタルヘルスを決定する」、「うつ病の教師が増えている」、「学校のメンタルヘルスは、校長先生の姿勢によってかわる」、「コミュニケーションの不足がメンタルヘルス不調者の発生につよく関わっている」、「上司のしつこい叱責が原因でメンタルヘルス不調になったケースがある」等の事例が報告されました。最後の事例については、「上司のしつこい叱責」とはパワーハラスメント（パワハラ）ではないか、という議論になりました。上司の言動が一

部の部下に「上司にいじめられた」と感じるほどに強い不快感を与えるならば、その上司の言動はパワハラであると考えることができます。パワハラ問題は、上司と部下のコミュニケーションが上手くいっていないことを示しています。

最近、労働基準監督署に、パワハラ被害の訴えがよく来るようになったそうです。協議会に出席されていた神戸西労働基準監督署長のお話では、パワハラ被害の労災認定は部下本人の記録や周囲の人の証言に基づくことでした。会議では「複数の部下が口裏を合わせれば、上司をパワハラに加害者に仕立て上げる事も十分に可能ではないか」という意見も出ました。これは、パワハラとは逆に、部下の方が上司に対しておこなう「いじめ」であり、パワハラ冤罪ということになります。いずれにしても、上司と部下のコミュニケーションがうまくいかず、それぞれが相手に対して不信感を持っているのです。

上司、部下のコミュニケーションがうまくいかないとき、その職場は、きっと、パワハラ問題（パワハラ冤罪も含めて）が発生しやすい職場になります。もうかなり以前のことになりますが、飲み会でのコミュニケーション、すなわちノミネーションが当たり前だった時代には、パワハラ問題も少なかったような気がしました。上司、部下が飲食をともにすることでお互いの人間性を認め合うことができ、また相互の不信感も払拭できて、そのことがパワハラ問題を予防していたのかも知れません。しかし、時代は変わり、価値観の共有も困難になり、ノミネーションもなくなってしまいました。ノミネーションという言葉自体、ほとんど死語になっています。職場のコミュニケーションは、ノミネーションとはちがった形であっても良いのですが、必ず確保されなければなりません。

…と、ここまで書いてきて、自分を振り返り、「私もずいぶんと産業医学的な発想が出るようになった。よく成長したなあ」と思いました（ナルシストですね）。以前の私だったら、ノミネーションの社会的な意味など考えなかったに違いありません。近畿地方会の皆さま、今後ともよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。



私たちの職場 (17)

京セラ(株) 滋賀八日市工場

健康管理室 産業医 尾崎 由美

京セラは、1959年ファインセラミックの専門メーカー「京都セラミック株式会社」として創業を開始しました。創業わずか50年ですが、現在では、素材から部品、デバイス、機器、さらにはサービスやネットワーク事業にいたるまで、多岐にわたる事業をグローバルに展開しています。

滋賀八日市工場は、太陽エネルギーを利用したソーラーシステム事業を行う工場として1980年に新設されました。太陽電池、切削工具、電子工業用部品などを中心に研究開発、製造、販売を行っています。



健康管理室 (一戸建て)

工場内は、いくつもの事業部に分かれており、それぞれが独立した一つの中小企業のように機能しています。そのため、企業というよりむしろ町工場のような社風が存在しているのが特徴です。また、職制の違いによって部屋や食堂などが異なることはなく、同じフロアでデスクを並べ、仕事をしています。比較的平等で、コミュニケーションをとりやすい環境があると思います。

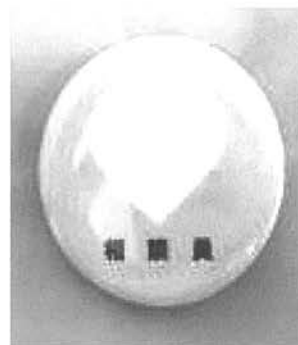
従業員約2,050名の健康管理を専属産業医1名、看護師1名、事務担当者1名の計3名のスタッフで担当しています。健康管理室スタッフは3名ですが、日頃から工場長、労務、安全防災担当者などと密に連携をとりながら、チームとして仕事を進めています。

健康管理室業務の中で、最近では、メンタルヘルス不調者を減らすための様々な取り組みを行っています。

①全体朝礼での教育：全体朝礼で全従業員に対し、数分間のメンタルヘルス・マネジメント教育を行っています。従来は数年に1回の頻度で半日程度の教育を行っていましたが。短時間ですが頻度を増やすことにより、メンタルヘルス・マネジメントをより身近なものとし

て捉え、生きた知識となることが期待できます。

②ハート相談員：職場のキーパーソンを育てることを目的に制度を設けました。メンタルヘルス講習を受けた後に試験を実施し、合格した人のみが「ハート相談員バッジ」を着用するというものです。一度の試験で合格し



ない場合は、合格するまで何度も追試験を行いました。バッジを着用することで、周囲の人は誰に相談すればよいのか分かりやすくなり、またハート相談員の意識そのものを高める効果も期待できます。

③職業性簡易ストレス調査：昨年、全従業員を対象として職業性ストレス調査をテスト導入しました。高ストレス状態が疑われる人に対し、個人面談を行いました。さらに、健康リスクが120%以上の職場に対しては、工場長と労務と共に、職場の実情を確認し、具体的な対策を進めるように話をしました。

また、心肺蘇生法・AED講習の取り組みも開始しました。比較的安価な蘇生人形を購入しました。一人一人ずつ蘇生人形を使うことで、訓練時間の待ち時間をなくし、講習時間を短縮することが可能となります。全従業員が年1回程度のペースで講習を受けるように進めていく予定にしています。京セラ従業員が最低限の心肺蘇生法の知識を有し、社内外で目の前で倒れた人に対し、勇気をもって行動できるようになることを目標にしています。

京セラの社風には、人を育てる、一人一人を大切に、家族的なつきあいをするという特徴があります。そんな面倒見のよい社風を、人によっては迷惑と感ずることもあるかもしれませんが、しかし、この家族的な社風を生かして、健康管理(特にメンタルヘルス)に対しても良いアプローチができるのではないかと考えています。

健康管理室業務はまだ未熟ですが、チームワークの良さで、少しずつ進化させていきたいと思っています。社員一人一人が、健康に対し、正しいセルフコントロールができることを目標として努力したいと思っています。

地方会研究会活動報告

職業関連性筋骨格系疾患研究会報告

保田 淳子 (滋賀医大院生)

2009年2月20日、京都私学会館205号にて定例研究会が開催されました。今回の主テーマは、先に、厚生労働省、中央労働災害防止協会、全国社会福祉協議会が公表した「社会福祉施設における安全衛生対策、腰痛対策・KY活動」マニュアルの検討で、取りまとめにかかわられた3先生より報告を受けて、議論が行われました。

はじめに、甲田先生(労働安全衛生総合研究所)からマニュアル製作の背景や腰痛予防対策の進め方の説明を受けました。介護現場における腰痛予防対策を職場の安全衛生対策として取り組むことの大切さや、腰痛の発生と関連している環境や働き方を見直す視点が必要なこと、その一方で、社会福祉施設では安全衛生活動が十分には行われていない問題点などが指摘されました。次に北原先生(滋賀医大)から、人力のみで行っている介助方法の見直しや作業環境改善などについて、実際の施設での具体的な改善事例に基づく報告を受けました。その中でも特に注目したのは、施設での腰痛予防対策を実施する際には、どうしても「持ち上げない＝リフトが必要＝コストがかかる」などといったネガティブな点に注目しがちですが、椅子の見直しや介助姿勢の方向を考えるなど、すぐにできることからでも効果が得られるということでした。最後に、太田先生(藤田保健衛生大)より、保育施設ではほとんどの作業での姿勢が職員の身体負担となっていること、例えば、園児に合わせてのしゃがみ姿勢や抱き上げ、授乳やおむつ交換などの問題点について、具体的な説明を伺いました。その対策として、園児を上げ下ろしして乗せるタイプのベビーカーの改善やオムツ交換台の改善事例など、持ち上げないことをやることを前提とした改善への取り組みが紹介されました。

研究会の議論を通じて、介護でも保育でも安全衛生に基づいた視点をもてば、負担を軽減するためのさまざまな対策が立案できることを強く感じました。私は、オーストラリアでノーリフトポリシーに基づく介護・看護職の腰痛予防対策を学びましたが、そこでも法律や指針を確認し、現場での本当の問題を見つめて対策を取る必要があるといわれていました。その方法の1つが身体負担の強い介助ではリフトなど器具を使うということでした。しかし、日本の多くの介護・看護現場では、腰痛予防として持ち上げないことを止めるのではなく、その対策がテクニック(ボディメカニクスや移乗介助技術)の議論に止まっています。研究会で議論されたような労働衛生管理に基づく腰痛予防対策に取り組む施設が一つでも増えればと強く思いました。

第50回近畿産業衛生学会のご案内(第1報)

財団法人 近畿健康管理センター 木村 隆

本年の近畿産業衛生学会は11月14日、日曜日、滋賀県大津市の湖岸で開催致します。

滋賀県は製造業が多く、リーマンショック前は近畿では最高の有効求人倍率でしたが、現在は最低です。短期的には景気の回復は思わしくない上に、中長期的には中国他新興国との熾烈な競争、国内では人口減少社会と社会保障のほころびが進行中です。将来の産業現場を見据えると、会員が従来あまり産業保健の対象としてこなかった労働者が鍵を握り、その領域の理解を深めることが必要との結論に至りました。

メインテーマとしては、滋賀県にある比叡山延暦寺を開かれた最澄の言葉「一隅を照らす」をお借りし、延暦寺には特別講演も依頼しております。副題は「産業保健の忘れ物」とし、シンポジウムを計画しました。

皆様のご参加をお待ち致します。晩秋の琵琶湖をお楽しみください。

日時：平成22年11月14日(日)

会場：ピアザ淡海(大津市におの浜1丁目1-20)

JR膳所駅から徒歩12分

(新快速は停車しませんので大津駅で乗り換え)

JR大津駅からタクシー5分

単位認定：日本医師会産業医認定制度(申請予定)

産業看護職継続教育(申請予定)

「報告 第8回近畿臨床産業医学フォーラム」

パナソニック健康保険組合

健康管理センター 浦野澄郎

2010年2月17日17時45分から大阪のホテルモントレーで開催した。今回は「新型インフルエンザ」をテーマに取り上げた。本フォーラムを企画した時(2009年11月)

は本邦においては新型インフルエンザの流行はほぼピークの時期であったが、開催した2月中旬は、例年ならば季節性インフルエンザの流行期の時期でもあった。しかし幸いなことに本年は季節性インフルエンザも含めて大きな流行にはなっていない。

特別講演の「新型インフルエンザの現状と課題」(大阪府立公衛研・副所長 高橋和夫先生)ではウイルス学的特徴から、臨床に至るまで平易に講演を頂いた。今回の流行初期の大阪府下の教育施設での集団発生について、感染の拡大を時間的な経過を詳細に提示された。当初スクールバスの中での集団感染を疑われたが、疫学調査の結果はそうではないことともに感染力も巷間言われているほど強くないことが明らかになったとのことであった。発生当初のメキシコでの罹患者の多いことや死亡者の多いことが「新型インフルエンザ」に対して誤解を与えてしまったのではないかと今後の



流行の推移についてはそのまま減少しつつ、終息していくのではとの見解であった。

パネルディスカッションでは、「今回の新型インフルエンザの流行と企業の対応」と題して、益江 毅先生（三洋電機・大東産業保健センター産業医）には一般企業の立場から、そして濱田千雅先生（大阪ガス・健康開発センター産業医）にはガス供給というライフライン事業者の立場から話を頂いた。益江先生からは成田空港での検疫強化中に会社の関係者がいたことが、会社幹部の理解を得て事前に計画していた全社的対策を比較的迅速にスムーズに実行に移すことにつながったとのことであった。しかし強毒性を想定しての計画であったため今回の弱毒性に対しては、そぐわない点も多く、今後は強化する対策とともに緩和する際の条件の事前準備の必要性を述べられた。濱田先生からは社会機能維持のためのライフライン事業者として緻密な内容の対策を示された。新型インフルエンザウィルスの毒性別（強毒型、中毒型、弱毒型）の感染拡大度に応じた警戒レベルを設定して、レベルに応じた事業継続体制を策定しているとのことであった。また籠城時の健康管理・衛生対策や予防対策を考えていることは、驚きであるとともに、如何なるときでもガスを止めないという会社の強い意志が読み取れた。

今回の新型インフルエンザは幸いにして弱毒型であったが、強毒型の可能性が消えたわけではない。今回の流行についての対策（水際作戦、ワクチン接種）の有効性・妥当性等々について、これから様々な意見が出てくるものと思われる。この度の流行を良き教訓にしてそして本フォーラムを参考にして、事業所におけるこれからの新型インフルエンザ対策の一層の充実になればと思う。

報告一産業精神衛生研究会の活動について

大阪樟蔭女子大学大学院教授 夏目 誠

本研究会は職場メンタルヘルスの普及や相談・診療、研究、研修のレベルアップを目的にして設立された。現在100名以上の方が登録されている。職種では産業医や精神科医、臨床心理士、産業カウンセラー、産業看護職などが主たる構成メンバーである。通算28回の研究会を行ってきた。

2年前までは年に3回、昨年度から年に2回開催。会場は原則として大阪府立労働会館（エル大阪）で、夜の6時半から9時までで、平均して50名前後の方が参加され熱心に聞き、質疑応答も活発だ。

昨年度の第1回目は「職域におけるメンタルヘルスの現状と考え方ー産業医に聞くー」みずほフィナンシャル大阪健康開発センター所長の廣部一彦先生を講師として行った。まず、先生は下記の2点を紹介し、産業医からみた職域メンタルヘルスの現状と課題などについて講演をした。その後、夏目の司会にて自由討議となった。

1. 職場における安全配慮義務の考え方と事業者責任
2. 全国専属産業医の会（サンユー会）における在職死亡調査（QQプロジェクト）とメンタルヘルス

不調による休業者調査（MHプロジェクト）

平成20年に労働契約法が改正され、事業者に安全配慮義務が法律にて義務付けられ、平成21年には「心理的負荷による精神障害等に係る業務上外の判断指針」の改正にて、「ひどい嫌がらせ、いじめ、又は暴行を受けた」などが心理的負荷の評価が強度Ⅲに認定されることとなった。これら一連の動きの中で、我々産業医のメンタルヘルス不調者に対する判断、対策、事業者に対する勧告など従来にもまして責任が重くなっている。メンタルヘルス不調者の背景や職場環境などにも、慎重にそして医療者としてのマインドを忘れずに対応していくことが必要だと感じている。

70名近い人が参加され、数多くの質問があり刺激が多い活気に満ちた研究会で、盛りあがった。

第2回目は「事例から知る心理的負荷に関する精神障害等の労災認定基準」の改正の実際

演者 大阪樟蔭女子大学大学院教授 夏目 誠

座長 大阪市立大学 准教授 井上 幸紀

改正により12項目のストレスの追加や「修正の視点」、「変化後の視点」の基準などが明確化された。ポイントは「ひどい嫌がらせ、いじめ又は暴行を受けた」が「Ⅲ＝強度」として追加された点を、事例を提示しながら具体的に説明を行った。質疑応答も活発になされた。

本年度は

◆第1回産業精神衛生研究会

5 / 12 (水) 18 : 30 ~

エル大阪（大阪府立労働会館）606号室

「最近のうつ病ABC」

座長：富士通KK産業医 谷口智子

事例から知る非定型うつ病について

大阪樟蔭女子大学大学院教授 夏目 誠

事例から知る新型・現代型うつ病について

大阪市大大学院准教授 井上幸紀

◆第2回産業精神衛生研究会

11 / 8 (月) 18 : 30 ~ エル大阪（大阪府立労働会館）

「認知行動療法ー産業領域への適用」 夏目 誠ほか（予定）

会員の方の多数の参加を、お待ちしております。

（文責 代表 夏目 誠）

地方会事務局から

平成22年度近畿地方会費は、2,000円です。

同封の振込用紙で郵便局から振り込んで下さい。

口座番号：00980-6-120808

加入者名：日本産業衛生学会近畿地方会

近畿地方会員は、日本産業衛生学会正会員に限りませんので、確認のため必ず会員番号をご記入下さい。

振込用紙の控えを領収書に替えさせていただきますので、あらためて領収書の発行はいたしません。

総会当日、地方会費の納入を受け付けます。

産業技術部会からのお知らせ

産業安全運動100年によせて

平成21年度は学校薬剤師会と連携してシックハウス症候群と捕集分析方法について研究会を開催しました。この研究会では北海道大学の岸玲子教授からシックハウス症候群の学校調査事例について、兵庫教育大学の鬼頭英明教授から学校保健法の改正について、大阪センターの河合俊夫から揮発性有機化合物の測定方法について、それぞれ報告と討論が行なわれました。参加者は約60名と多数の参加がありました。これを機に平成22年度の技術部会では産業安全、作業環境、リスクアセスメント、メンタルヘルスなど幅広いの情報を提供し、技術者の出来る役割を考えたと思っています。

安全運動の歴史は1900年代初頭のアメリカの産業界で提唱されていた「セーフティ・ファースト」の運動に感銘を受けた古河鋳業尾尾鋳業所所長の小田川全之（おだがわ まさゆき）氏は1912年（大正元年）、「安全専一（あんぜんせんいち）」と名付けた標示板を坑内外に掲示し、従業員の安全意識の高揚を図るなど同鋳業所をあげて安全活動を始め来年度で100年になり、色々なイベントが各事業団体で規格されています。技術部会でもこれを機に安全を取り上げた研究会を行いたいと考えています。

平成22年4月から技術部会の副会長である熊谷信二、（大阪府立公衆衛生研究所）が産業医大に転職され、労働衛生技術を若い人に教えることになりました。パートナーがいなくなることは淋しいですが今後幅広く活躍されることを祈ります。

産業看護部会からのお知らせ

部会長 大脇多美代

平成21年7月に議員立法において全員一意で保健師・助産師・看護師の教育課程について60年ぶりに保助看法が改正になり、教育制度が大きく改革されようとしています。産業看護部会としてもこれらの改革を見据えた会員の教育研修等、部会運営が必要となります。平成22年度の活動計画

1. 定例研修会

< 1回目 >

第15回 近畿産業医部会研修会

『雇用の多様化と安全衛生の課題』のご案内

実行委員長 永田秀敏

平成22年9月11日（土曜日）午後2時～5時に大阪市立大学 医学部学舎 4階大講義室にて第15回近畿産業医部会研修会を開催いたします。『雇用の多様化と安全衛生の課題』と題し、産業構造の多様化、複雑化に伴う安全衛生の課題について検討することを目的に、産業医科大学 副学長 森見爾先生から、『働き方が多様化する中での産業保健サービスの課題（仮）』というテーマで基調講演を頂戴し、シンポジウムでは構内で働く非正規社員の有害業務管理に焦点を当て討論を進めて参りたいと存じます。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成22年7月31日（土）13：30～16：00

会 場：エルおおさか 本館6階606号室

テーマ：「産業看護職の職務と役割」

～今、産業看護職に求められる役割～

講 師：五十嵐 千代先生

東京工科大学医療保健学部 准教授

同産業看護実践研究センター 所長

< 2回目 >

日 時：平成22年10月2日（土）13：30～16：00

会 場：エルおおさか 本館5階 視聴覚室

テーマ：「新型うつとは」～その傾向と対策～

講 師：夏目 誠先生

大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科 教授

< 3回目 >

日 時：平成23年2月26日（土）13：30～16：00

会 場：エルおおさか 本館

テーマ：「特定保健指導」

～スタートから2年、実施と評価取り組み

事例を通して考える～

講 師：交渉中

2. 日本産業衛生学会認定産業看護職継続教育基礎コース開催のお知らせ

開催日時：平成22年9月25日～平成23年7月16日
計10回

いずれも土曜日開催

（午前10：30～午後4：45）

受講資格：本部の受講資格に準ずる

参加人員：約70名 参加費：無料

会 場：エルおおさか（府立労働センター）本館会議室

共 催：大阪産業保健推進センター、京都産業保健推進センター、滋賀産業保健推進センター、兵庫産業保健推進センター、和歌山産業保健推進センター、奈良産業保健推進センター

3. 連絡先：

1, 2 申し込み・連絡先：FAX06-6944-1192

〒540-0033 大阪市中央区石町2-5-3 エルおおさか南館9階

独）大阪産業保健推進センター内

産業看護部会 大脇多美代 宛

東レ滋賀産業医募集

常勤2名体制の1名欠員による募集です。経験のない方でも丁寧に指導させていただきます。見学も随時受け付けます。ご興味のある方はご連絡下さい。

（常勤産業医 中西一郎

Ichiro_Nakanishi@nts.toray.co.jp）

所在地：滋賀県大津市園山1丁目1番1号

（JR石山駅徒歩10分）

勤務時間：8：30～17：00（7.5時間）

休 日：完全週休2日制

給 与：委細面談の上

問い合わせ先：TEL 077-533-8008

FAX 077-533-8025

（労務課 山田耕治）



幹事会議事録 2009年度第4回定例幹事会

日時：2010年2月15日(月) 18:30~20:30
 場所：大阪市立大学医学部学舎 18階会議室
 出席：車谷・清田・岡田章・廣部・大脇・山田・植本・西尾・森岡・河合・埴田・宮上・上田・岡藤・木村・久保田・河野(代理)・佐野・竹村・中西・日高・宮下(順不同・敬称略)
 欠席：廣田・夏目・小泉・鮫島・篠岡・篠吉(順不同・敬称略)

1. 審議事項

- 1) 平成21年度事業報告(案)：車谷会長から報告あり一部修正の上承認(3,4頁)
- 2) 平成22年度事業計画(案)：車谷会長から報告あり一部修正の上承認(5頁)
- 3) 平成21年度決算報告(案)：2月5日現在の結果に基づいて清田副会長から説明があり一部修正の上承認。なお、会計年度末の結果については、6月5日の地方会総会までに監査を受けることを予定しているとの発言が車谷会長からあった。
- 4) 平成22年度予算案：清田副会長から説明があった。また、現在、論議中のホームページの管理委託契約を新年度更新は見送ること、産業歯科保健部会の立ち上がりつつあるため、状況によって予算措置が必要となることから「次回の幹事会でこれらを踏まえた予算修正案を提案する」との発言が車谷会長からあった。
- 5) 次期選挙管理委員会の立ち上げと委員の選任について：森岡現選挙管理委員長から資料を用いて説明があった。①委員は半数改選が望ましい、②電子投票システムについては、実施した東京では10%程度の投票率(結局郵送を併用することになった)であったことなどから今回は導入しない等が論議された。新委員を、土手友太郎代議員(非改選)、吉田廣子代議員(新任)、鮫島真理子代議員(非改選)、道辻広美(非改選)、埴田和史代議員(新任)、西尾久英代議員(新任)、松本泉美代議員(新任)に委嘱。
- 6) 地方会ホームページ等見直し検討委員会からの

提案：中西担当幹事からの報告と提案を受けて活発な論議があった。HP充実のために見直すことについては異論なかったが、HPと地方会ニュースのそれぞれの意義づけと役割分担については委員会ですらに検討することになった。会員にHPが一時閉鎖することをニュースで案内することなども確認された。

- 7) 近畿地方会主催研修会の今後のあり方について：産業医学実践講座実行委員会委員長の河野幹事(代理・土手代議員)から、現行の形での講座の役割は終えたことなどから「実践講座」の打ち切りの提案があった。しかし、「実践講座」の役割終了について必ずしも共通の認識とならず、岡田理事からの提案に基づき「新旧実行委員会メンバー」で「実践講座」のあり方を再度論議することとした。再度論議の日程は車谷会長が行うことになった。
 - 8) 来年第51回近畿産業衛生学会の開催について：夏目誠学会長のもと来年11月に奈良県文化会館で開催予定との報告があった(後日、2011年11月5日(土)、奈良県文化会館(奈良市)と正式に決定)。
- ## 2. 報告事項
- 1) 第50回近畿産業衛生学会(11月14日・滋賀)の進捗状況について木村隆会長から報告があった。
 - 2) 第58回近畿地方会総会(6月5日・大阪市大)の準備状況について廣部担当理事から報告があった。
 - 3) 本部理事会報告：岡田理事から本部理事会(12/26)の報告があった。公益社団法人化を目指して福井で定款改正案の提案の見込みであること、宮上幹事(規定類検討委員会委員長)と相談しながら4月の理事会に意見などを提案したい旨の発言があった。
 - 4) 地方会ニュース発行についての報告：山田担当理事から順調に発行されていることの報告があった。
 - 5) その他：大脇担当理事から、産業歯科保健部会の結成準備状況について報告があった。

会員の異動 (敬称略)

(新入会員)

寶學 英隆	奈良先端科学技術大学院大学
原田 暢善	産業技術総合研究所関西センター
長澤 康浩	(財)京都工場保健会
柏木雄治郎	大阪府立成人病センター 心療・緩和科
浪江 弘美	(財)近畿健康管理センター 大阪・兵庫事業部
村上 典子	(財)近畿健康管理センター 大阪・兵庫事業部
秋山 直美	川崎重工業 明石工場 健康支援センター
在原 隆夫	和歌山県立医科大学附属病院
宇田 賀津	関西福祉科学大学
中 亮介	(財)近畿健康管理センター
嵯峨 裕子	姫路北病院
山崎 健太	サンスター(株)
小林 史明	サンスター(株)
繁田 康民	サンスター(株)
鶴見 利江	サンスター(株)
山本 恵子	サンスター(株)

(再入会員)
赤築 綾子 三井化学(株) 大阪工場 健康管理室

お知らせ

謹告

本年は本部及び地方会役員選挙の年です。
 平成21年、22年の本学会年会費が7月31日までに納入されていない場合は選挙権・被選挙権が失効します。
 ご注意下さい。

HP閉鎖の案内

近畿地方会HPはリニューアルのため5月31日を持ちまして一旦閉鎖いたします。

編集後記

このニュースがお手元に届くころには、新年度も早や大型連休を過ぎ、会員の皆様にはいよいよ充実して毎日をお過ごしのことと思います。
 経済不況下、格差社会の到来とともに、われわれ産業保健分野にも、健康格差が顕在化してくることが指摘されます。それに対して、産業保健専門職として、この問題にどう向き合い、行動していくのかが問われています。来たる第83回日本産業衛生学会(福井)では日本学術会議と合同で「雇用労働環境と労働者の健康・生活・安全」と題して、まさに「格差社会と労働者の健康」にスポットをあてて、市民公開シンポが開催されます。多数の会員の皆様の来聴を歓迎申し上げます。
 なお、地方会のホームページは、リニューアルのため、一時中断致します。会員の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しますが、よろしくご了承の程お願い申し上げます。(宮下和久)

編集委員 (五十音順)

河合 俊夫	木村 隆
久保田昌詞	中西 一郎(広報事務局)
廣部 一彦(編集責任)	藤岡 滋典
藤吉奈央子	宮下 和久
山田 誠二(編集総括責任)	



POCARI SWEAT 30th Anniversary

1980年の発売以来、多くのみなさんに愛され続けて、ポカリスエットは今年で30歳をむかえました。今では世界160ヶ国・地域で発売されるまでに成長いたしました。これも皆様の皆様のご厚情の賜物だに感謝しています。ポカリスエットは、「汗の飲料」といっけんコンプレックスのもと、人間のカラダに最適な水分と電解質を徹底的に研究して誕生。毎日の暮らしの中で、いつでも安心して飲める健康飲料として、この30年間ずっと成分を変えずに、皆様に愛され続けることができました。

ポカリスエットの1本1本が皆様のbetter healthに貢献できる健康飲料であり続けるために、これからもポカリスエットを大切に育てていきたいと考えております。今後とも、ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

大塚製薬株式会社大阪支店
 〒530-0005 大阪府北区中之島6-2-40
 TEL:06-6441-6532